**Will the War in Gaza Ignite the Middle East?**

Escalating Violence Could Set Israel and Iran on a Collision Course

**By**[**Dalia Dassa Kaye**](https://www.foreignaffairs.com/israel/will-war-gaza-ignite-middle-east#author-info)

**October 19, 2023**

ハマスが10月7日にイスラエルへの恐ろしい攻撃を開始した後、多くのオブザーバーは当初、この戦争がイスラエルとハマスの限定的な紛争にとどまると予想していた。イスラエル、イラン、米国にはそれぞれ、戦争の拡大を避けたい理由がある。イスラエルはガザでの軍事対応で手一杯であり、イランは米国との衝突の可能性を回避したいのだろう。そしてワシントンは、石油市場を混乱させ、過激主義を煽り、ウクライナ戦争から注目を集めるような不安定な地域紛争には関心がない。イランにとって最も重要な同盟国であるヒズボラは、レバノンで独自の課題に直面しており、イスラエルとの新たな戦争は同国の政治的・経済的危機を深める可能性がある。

近隣諸国も、この戦争がエスカレートすることにはあまり関心がない。ヨルダンやエジプトなどのアラブ諸国は、すでに深刻な社会経済問題に直面しており、難民の流入によってさらに悪化するだろう。湾岸諸国にとっては、戦争が拡大すれば野心的な経済開発プロジェクトが中断することになる。また、軋轢のある地域関係を修復し、リビア、シリア、イエメンで進行中の紛争を終結させようとする努力の妨げにもなりかねない。ガザは、イスラエルによる前例のない空爆と地上侵攻が予想される中、すでに深刻な人道危機に直面しており、イスラエルの大部分は定期的なミサイル攻撃の標的となっている。外部のプレーヤーは誰も、悪い状況をこれ以上悪化させたくはないだろう。

しかし、10月17日にガザ市のアル・アハリ病院で起きた壊滅的な爆発の後、封じ込めを支持する論理的論拠は直感的でなくなった。爆発について矛盾した説明がなされ、イスラエルに責任はないというワシントンの評価にもかかわらず、バーレーン、エジプト、ヨルダン、モロッコ、カタール、サウジアラビア、アラブ首長国連邦など、この地域の国々はこぞってイスラエルの空爆によるものだと主張した。中東の各都市で抗議デモが発生した。緊張が高まる中、ヨルダン、エジプト、パレスチナの首脳がイスラエル訪問後のジョー・バイデン米大統領と一堂に会する予定だったサミットがアンマンでキャンセルされた。

しかし、病院の悲劇が起こる以前から、ハマスの攻撃の規模や、ガザで戦争が展開されている現地の現実は、すでに主要な関係者の戦略的計算を変化させていた。こうした変化により、地域がエスカレートする可能性が高まっており、イランとイスラエルが対立するリスクは特に高まっている。

イランの外相は10月15日、アルジャジーラのインタビューで、イスラエルによるガザでの作戦が続く限り、「他の多くの戦線が開かれる可能性が高い」と警告し、イスラエルが「ガザへの進入を決定すれば、レジスタンスの指導者たちはガザを占領軍兵士の墓場にするだろう」と付け加えた。イランの最高指導者アリー・カメネイは、イスラエルのガザ攻撃が続くなら、イランが過激派を引き留めるという「いかなる期待も抱くべきではない」と述べ、このような脅しを繰り返した。イランの専門家のなかには、こうした発言を政治的な姿勢、あるいはイランがレバノンのヒズボラやイラクのシーア派武装勢力といった非国家的パートナーの行動から距離を置いていることの表れだと解釈する者もいる。しかし、イスラエルとイランが公然と衝突する可能性は否定できない。特に、イランの指導者たちが民兵の攻撃を公に支援することで、否認の余地が狭まるからだ。

イスラエルとイランの直接対決は、単なる仮定のシナリオではない。イスラエルとイランの対立は、現在のイスラエルとハマスの戦争よりずっと以前から起きていた。イスラエルとイランは何十年もの間、陸上、空中、海上で「影の戦争」を繰り広げてきた。そして過去5年間、2018年に米国がイラン核合意から離脱し、イランの核開発が進化するなかで、その戦争は激化してきた。攻撃のテンポが速くなることは、敵対行為が危険すぎるようになる前に一線を引く力があると各陣営が信じているため、抑制されたエスカレーションのように見えた。今、ガザでの戦争は、すでに微妙な計算を狂わせつつある。紛争が長引けば長引くほど、穏健化へのインセンティブが低下し、イスラエルとイランの衝突リスクが高まるだろう。

警戒の必要性

イスラエルとハマスの戦争が始まった当初、主要な関係者は地域のエスカレーションに対する懸念を鎮めるような立場をとっていた。イスラエルの指導者たちは、自国史上最悪の攻撃の規模と残虐性に衝撃を受け、軍事的対応を準備する中で、ガザからのテロの脅威を阻止することに集中した。攻撃の翌日、ウォール・ストリート・ジャーナル紙などの欧米の報道機関が、イランが攻撃を「手助けした」と報じたとき、イスラエルの国防当局はその主張を速やかに否定した。イランがハマスに軍事援助や訓練だけでなく資金援助も行っていることはよく知られているが、イスラエル国防当局者は、10月7日の出来事におけるイランの明確な役割を確認する証拠がないことを強調した。

米国政府高官もほぼ同じ見解を示した。バイデンは『60ミニッツ』のインタビューで、ハマスの攻撃の背後にイランが関与していたのかとの質問に対し、「明確な証拠はない」と答え、米国政府もテヘランがハマスの計画を事前に知っていた形跡はないと指摘した。イラン政府も直接の関与を否定しているが、同国の指導者たちは今回のテロを公に賞賛し、ハマスとの連帯を表明している。

地域全体のレトリックが激しさを増し、戦争による犠牲者が増加するなかでも、イランがある程度の警戒を続けるだろうと考える理由はある。イランの指導者たちは、国内の正当性が低下し、経済が苦境に立たされているため、自分たちの生存を心配しており、米国と直接衝突する危険を冒したくないのである。実際、この戦争の前、テヘランとワシントンは外交に重点を置き、限定的な捕虜交換協定を結び、イラン資産の一部凍結を解除した。(バイデン政権と資金が保管されているカタールは10月12日、イランの資産へのアクセスを一時停止した）。ワシントンが2隻の空母を東地中海に派遣したのは、イランの指導者たちに、イランが争いに参戦すれば米国も対応すると警告することで、さらなるエスカレートを防ぐためだった。イランの同盟国ヒズボラも、イスラエル・ハマス戦争への初期対応では比較的自制的で、深刻なエスカレートを避けるために小規模な攻撃を仕掛けていた。

イスラエルとハマスの戦争が始まった当初、主要な関係者は地域のエスカレーションに対する懸念を鎮めるような立場をとっていた。

しかし最近になって、イランの指導者たちからの公的なメッセージは、紛争に参加することを望む地域の武装勢力を黙認するものとして機能し始め、イランによる直接介入の可能性を残している。ここ数日、ヒズボラはイスラエル北部に向けてより高性能の対戦車ミサイルを発射し始め、これまでのイスラエルのレッドラインを試している。

イスラエルはレバノン南部の標的への反撃で対応している。レバノン国境でのさらなるエスカレートは極めて危険だ。ヒズボラはハマスよりもはるかに進化した軍事能力を有しており、イスラエル全土に届くより正確で強力なミサイルを発射する能力もある。ヒズボラからのミサイル砲撃は、ハマスからの最も強力な攻撃よりも簡単にイスラエルのミサイル防衛を圧倒することができる。イスラエルはすでに国境付近の20以上の町に避難を命じているが、これは民間人の犠牲の可能性を減らすことで、第二戦線の出現に備えるため、あるいはそれを防ごうとするためである。国境を越えたレバノンでも、市民が戦火にさらされている町から避難している。

新たな北部戦線の開設は避けられないわけではない。イスラエルが今優先しているのはガザ対策であり、北方国境でのエスカレーションはその取り組みを複雑にする。一方、ヒズボラは、ヒズボラとイスラエルの全面戦争が米国を引き込む可能性があることもあり、軍事作戦の拡大を警戒している可能性がある。ヒズボラは国内でも圧力に直面している。ガザでの民間人死亡におけるイスラエルの役割に憤る抗議者たちがここ数日、ベイルートの通りを埋め尽くしているが、レバノン国民もまた、軍事的交戦は悪化させるだけであろう国内の重大な危機の数々に不満を抱いている。したがって、ヒズボラの最近の攻撃の主な目的は、ハマスとの連帯を示し、ガザでのイスラエルの努力から資源をそらすことであり、北方戦線を開くことではないだろう。イランとしては、ガザのためにヒズボラに軍事的リスクを負わせたくないのだろう。ヒズボラからの報復の脅威は、体制の存続を危うくしかねないイスラエルの大規模な攻撃を抑止するための、テヘランの戦略の重要な要素である。

タイムボム

しかし、戦争がイランとイスラエル双方の安全保障上の計算を変化させていることから、イランとイスラエルの全面的な衝突が勃発する可能性もある。実際、そのような衝突の危険性は、戦争が始まる前から高まっていた。イスラエルとイランの影の戦争が近年激化するにつれ、イスラエルによるシリアにおけるイランの代理勢力への攻撃は、イランの核施設への重大な攻撃を含め、イラン国外および国内のイランの海軍・軍事資産にまで拡大した。

この進展は、いわゆるイスラエルの対イラン「タコ」戦略を反映している。「触手」すなわち他国のイラン支援勢力に対する作戦から開始し、イラン国内の「頭」に向かって進む。歴代のイスラエル政府がこの戦略を採用するにつれ、イランはそれに呼応して、商業船舶を含むイスラエル関連の標的への攻撃をより大胆なものにした。

今回の戦争が始まる前、双方はエスカレーションを抑えられると確信していたようだ。米国による2020年1月のクドス部隊司令官カセム・ソレイマニの暗殺や、イスラエルによるシリアとイランへの攻撃を含め、米国とイスラエル双方からの挑発に対するイランの反応は比較的抑制的だった。イスラエルの指導者たちは、この自制を、イランがより大規模な紛争を起こすのを抑止することに成功したことを意味すると解釈した。イランに対するイスラエルの想定は、ガザのハマスに対する戦前の想定と次第に似てきた： イスラエルは、深刻な報復や戦争拡大のリスクを冒すことなく、敵対国の能力を定期的に低下させることができると信じていた。

今、イスラエルとイランの全面的な対立を阻む障壁の一部は崩れつつある。

イランの指導者たちも思い上がりにとらわれている。ロシアとの関係を強化し、イランの主要なライバルであるサウジアラビアを含むアラブ近隣諸国の大半との関係を修復したことで、彼らは自国の地域的地位に対する自信を深めていった。2022年秋の抗議デモの後、テヘランは国内不安を残忍に弾圧した。核開発面での最近の進展もそうだ。イランは2015年の核合意の破綻後、核の閾値に達したと考えられており、先月の米国との囚人交換合意は、テヘランが核計画を大幅に撤回することを要求しなかった。

イランは、ヒズボラ勢力がイスラエルにもたらす脅威を含め、自国の抑止力によって、イスラエルから大きな反撃を受けることなく、地域全体に力を及ぼし、核態勢を維持できると考えていたのかもしれない。ここ数カ月のベンヤミン・ネタニヤフ首相政権に対する広範な抗議行動は、弱体化したイスラエルが挑発行為に対抗することはないだろうというイランの思い込みを強めたと思われる。

イスラエルとイランがともに優勢だと考えていたことが、両国を危険な道へと導いていた。それぞれが、手に負えないエスカレートのリスクを冒すことなく、定期的に相手を針小棒大に扱うことができると考えていたのだ。今、イスラエルとイランの対立を阻む障壁のいくつかは崩れつつある。現在の戦争がヒズボラによるイスラエルへの全面攻撃、イスラエルによるヒズボラへの大規模な攻撃、米国によるイランの核施設への攻撃、あるいは同規模の別の事態につながれば、障壁は完全に崩れ去る可能性がある。イスラエルとイランは、このような事態を存立危機事態と見解し、両国の指導者が直接的な衝突に慎重でなくなる可能性がある。

砂の移動

このような破滅的な結末が確実視されているわけではないが、双方の現在の考え方は、紛争を抑制するどころか、危険な拡大へと向かわせる可能性がある。テヘランの指導者たちは、イスラエル・ハマス戦争を、レバノンやシリアからの代理攻撃によってイスラエルの戦力を低下させる機会、あるいはイラクやシリアの米軍に対する民兵攻撃の再開を促す機会とみなすかもしれない。こうした作戦はすでに進行中かもしれない。10月18日、米国はイラク駐留米軍の基地を標的とした無人偵察機を傍受した。イランは、その行動をガザのパレスチナ人の苦しみへの対応としているため、地域的、世界的な関係を壊すことなく、イスラエル、あるいは米国と対峙できると考えているのかもしれない。

決定的なのは、テヘランは大国のパートナーが紛争に関与しないことを期待していることだ。ロシアは中東の不安定化を歓迎し、この戦争をウクライナでの蛮行からの気晴らしと考えているかもしれない。中国は、中国への中東産石油の安定的な供給を維持することに関心があるため、地域の不安定化につながるイランの動きを容認する可能性は低い。しかし、イランの行動が米国の立場を弱めるのであればなおさらである。

イスラエルがハマスの攻撃を予測できなかった破綻は、敵対国との付き合い方に関する前提を覆した。

イランから見れば、イランの標的に対するこれまでのイスラエルの攻撃は無回答であり、対応が必要である。イスラエルが混乱し、打ちのめされ、ハマスの攻撃によってその脆弱性が露呈した今が好機かもしれない。イランの指導者たちが報復のことだけを考えているのではなく、イスラエルがガザでの戦争を終結させれば、その軍事力をイランに向ける可能性を考えているのであれば、テヘランは先制行動が必要だとさえ考えているかもしれない。

イスラエルが現在ガザで直面している困難を考えれば、イランの指導者たちは、自分たちの行動が限定的な反応を引き出すと期待しているかもしれない。しかし、ハマスのトラウマ的な攻撃の後では、イスラエルの能力と決意を過小評価することになる。多くのイスラエル国民が、自分たちを守ることに失敗した政府への怒りを抱えたままであるにもかかわらず、イスラエルはこの戦争に「勝利」し、ハマスを衰弱させるという共通の決意のもとに団結している。イランの指導者たちが、次はイスラエルがイランに寝返るかもしれないと心配するなら、それは正しいかもしれない。

イスラエルがハマスの攻撃を予測し、阻止できなかった破綻は、敵対国への対処法に関するイスラエルの長年の思い込みを覆した。自国を滅ぼそうとする敵は「封じ込める」あるいは「管理する」ことができるという考え方は、これまでイスラエルの対ハマス政策を動かしてきた前提であったが、信用されなくなった。イスラエルがイランに照準を合わせれば、ミサイルや核施設、イスラム革命防衛隊につながる場所など、イラン国内の政府目標を大規模に攻撃し、タコの頭を狙うことになるかもしれない。イスラエルの指導者たちは、自国の崩壊した抑止力を回復する唯一の方法は、イランと直接、公然と対決することだと考えるようになるかもしれない。現在の戦争が始まって以来、バイデン政権がイスラエルに約束した強力な軍事的支援は、イランへの攻撃時に米国の支援を当てにできるというイスラエル当局者の自信をさらに強めることになるかもしれない。

ガードレールは崩れるのか？

本格的な戦争はもちろんのこと、イスラエルとイランの小競り合いが増えれば、地域を不安定化させ、世界市場を混乱させ、民間人に甚大な被害をもたらし、米軍を引き込み、おそらくイランに核戦力の兵器化を促す可能性さえある。戦争がまだこの地域に広がっていないという事実から、世界の指導者たちは、戦争が拡大することはあり得ないと錯覚してはならない。結局のところ、イスラエルとイランのエスカレートする力学を支えている脆弱で幻想的な前提は、怒りや誤算、戦略の転換によって突然崩れやすいのだ。

これまでのところ、バイデン政権はそのリスクを理解しているようで、イスラエルとハマスの戦争を封じ込めることを優先し、この1週間の外交を展開した。地域のパートナーの協力を得て、政権も裏ルートを通じてイランに働きかけているようだ。このようなコミュニケーションは、誤算や望まない軍事的エスカレーションを避けるために重要である。

問題は、すべての当事者が地域戦争を回避することに関心を持っている場合にのみ、この紛争が抑えられるということだ。今のところ、その条件は維持されているようだ。しかし、それが将来も続く保証はない。現地の状況は流動的であり、イスラエル、イラン、あるいは両国の戦略的計算が変化すれば、指導者たちは、戦争で対峙するよりも紛争を回避する方が自国の存続に大きな危険をもたらすと考えるようになるかもしれない。